

第9回 (2023年度) 日本セラミックス協会フェロー表彰

日本セラミックス協会フェロー表彰は、本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた本会個人会員を本会として称え、日本セラミックス協会フェロー（英語名称：CerSJ Fellow）の称号を授与することで、本会を代表するに相応しい会員としての活動を続けていただくとともに、本表彰により会員の本会活動に対する参加意欲の増大を促し、セラミックス分野の更なる発展を図ることを目的としています。

フェロー候補者選考委員会にて慎重な審議を行い、受賞候補者として次の5名の方が理事会に推薦され、2023年11月30日の理事会で最終的に受賞者として決定いたしました。ここに各受賞者のフェロー表彰推薦理由を紹介します。

受賞者一覧

(5名 氏名五十音順, 所属は受賞時点のもの)

相澤 守	明治大学
赤井 智子	産業技術総合研究所
今井 宏明	慶應義塾大学
藤代 芳伸	産業技術総合研究所
山田 智明	名古屋大学

2023年度フェロー候補者選考委員会

委員長：岡田 清，委員：平尾一之，山下仁大，陶山容子，後藤 孝，加藤一実

※本年4月号後付に2024年度フェロー候補者推薦要項を掲載しております。

Recipients of The 9th CerSJ Fellow Awards

あいざわ まもる
相澤 守氏

相澤守氏は、我々の生体組織が異方性を有することに着目し、結晶異方性制御により骨や肝組織の再生や骨形成能を促進する「生命機能セラミックス」を創製するとともに、その機能発現メカニズムを解明し、当該分野の発展に貢献している。また、同氏は2001年に日本セラミックス協会進歩賞、2019年に同学術賞を受賞している。さらに、本協会では、理事、生体関連材料部会長、セラミックス誌編集委員長、秋季シンポジウムオーガナイザーなどを歴任し、協会活動にも尽力している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1990年上智大学理工学部卒業。1992年同大学院理工学研究科博士前期課程修了。同年花王株式会社入社。1993年上智大学理工学部助手。1996年博士(工学)取得。2003年明治大学理工学部准教授。2008年同大学教授。現在に至る。

あかい ともこ
赤井 智子氏

赤井智子氏は、NMRを用いたガラスの分相現象のメカニズム解明の知見をもとに、再利用が困難な重金属を含むガラスの重金属脱離技術を開発し、日本の廃ガラスの処理の方針策定に大きく貢献した。また、光機能性ガラスの開発にも取り組み、結晶並みの高い変換効率を示す蛍光ガラスを見出し、さらにその励起・発光特性の系統的な研究を行い、ガラスの蛍光体としての可能性を明示した。また、同氏はガラス部会幹事、標準化委員など

を務め、協会の活動にも大きく貢献している。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1991年大阪大学大学院理学研究科博士課程中退。同年大阪工業技術研究所入所。1997年理学博士。2004年産業技術総合研究所グループ長。2018年同所副研究部門長。2023年同所審議役。

いまい ひろあき
今井 宏明氏

今井宏明氏は、長年にわたって多様なバイオミネラルの構造を解析するとともに、その形成過程を模倣することで溶液系を用いたナノ物質の合成プロセスを開発し、多彩な機能材料の開拓をおこなってきた。その成果はサステイナブルな機能材料技術の発展に寄与しており、その業績から2014年に日本セラミックス協会学術賞を受賞している。また、本協会では、行事企画委員会、論文誌編集委員会、運営委員会において委員および委員長を務め、

協会活動に貢献している。以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1985年慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了。同年日本酸素(株)入社。1989年工学博士取得。1993年慶應義塾大学理工学部助手、講師、助教授を経て2007年教授。

ふじしろ よしのぶ
藤代 芳伸氏

藤代芳伸氏は、イオン伝導性材料でのセラミックス電気化学デバイスの高度利用化と革新プロセスの研究開発に携わってきた。ファインセラミックスに関する研究開発プロジェクト実施や協会秋季シンポジウムでのエネルギー関連技術の特定セッション提案などでもセラミックス分野の活性化へも貢献した。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会

フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 1995年東北大学工学研究科博士課程修了。同年東北大学反応化学研究所(現多元研)助手。1999年工業技術院名古屋工業技術研究所(現中部センター)研究員。2008年研究グループ長。2020年研究部門長。現在に至る。

やまだ ともあき
山田 智明氏

山田智明氏は、誘電体セラミックス薄膜の研究において、成長・特性制御の新しい手法の創成に成功した。また、欧州をはじめとするセラミックス分野の研究者と多くの国際共著論文を執筆し、それらの成果は国内のみならず国際的にも高く評価され、2020年米国セラミック協会フルラス賞、2023年セラミック協会学術賞を受賞している。また、本協会においては、学術論文の編集委員や行事企画委員、電子材料部会役員なども務めてきた。

以上、同氏は本会における継続的な活動を通じて、セラミックス分野の発展に顕著な業績を挙げた。よって、日本セラミックス協会フェロー表彰に値するものとして推薦する。

略歴 2003年東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻博士課程修了。2004年スイス連邦工科大学EPFL博士研究員。2008年東京工業大学総合理工学研究科特任助教。2010年名古屋大学工学研究科准教授を経て、2021年同大学教授(現職)。